



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語
一年

二月
第1週





印刷の仕方

1. Webページ <http://JPNCClass.com> へ行きましょう。
2. YouTube授業をクリックしましょう。



ようこそ JPNC Class へ

JPNCClassは、海外に暮らす子どもたちとご家族をサポートする目的で開設されました。子どもたちにオンラインでの国語などの授業を提供します。また、ご家族と海外での日本語教育や子育てについて共に考える講演会やセミナーを開催します。

授業は、オンライン授業 (Zoom)、ビデオ (Youtube)を通して提供します。現在お住まいの地域に日本語補習校など日本語を学ぶ学校がない、行く時間がない、あるいは自分のペースで日本語の勉強を進めたいといった子どもたちに最適です。

詳しくは、オンライン授業、YouTube授業、講演会・セミナーのページをご覧ください。



印刷の仕方

3. 中1国語 2月第1週 〈スライド (PDF)〉をクリックしましょう。



JPN Class
Online school - 日本語で学ぼう

日本語で学ぼう！ 小学生、中学生向けオンライン授業

YouTube 授業

中学1年生 国語： <YouTube チャンネル 中1国語>

- 中1国語 9月第1週 <YouTube ビデオ> <スライド (PDF)>
- 中1国語 9月第2週 <YouTube ビデオ> <スライド (PDF)>
- 中1国語 1月第2週 <YouTube ビデオ> <スライド (PDF)>
- 中1国語 1月第3週 <YouTube ビデオ> <スライド (PDF)>
- 中1国語 2月第1週 <YouTube ビデオ> <スライド (PDF)>

少年の日の思い出

客は、夕方の散歩から帰って、わたしの書斎でわたしのそばに腰かけていた。昼間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には、あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。ちよと、わたしの末の男の子が、おやすみをいったところだったので、わたしたちは、子供や幼い日の思い出について話し合った。

「子供ができてから、自分の幼年時代のいろいろな習慣や楽しみごとが、またよみがえってきたよ。それどころか、一年前から、僕はまた、ちよと集めをやっているよ。お目にかけよう。」

彼が見せてほしいと言ったので、わたしは、収集の入っている軽い厚紙の箱を取りに行った。最初の箱を開けてみて、初めて、もうすっかり暗くなっているのに気づき、わたしは、ランプを取ってマッチをすった。すると、たちまち外の景色はやみに沈んでしまい、窓全体が不透明な青い夜の色に閉ざされてしまった。

わたしのちよとは、明るいランプの光を受けて、箱の中から、きらびやかに光り輝いた。わたしたちは、その上に体をかがめて、美しい形や、艶やかな色を眺め、ちよと名前を言った。

ヘルマン・ヘッセ
高橋 健二 訳



1

4.  がついているページを印刷しましょう。

②必ず用意してください

- ・ 国語のノートと漢字ノート
- ・ 筆記用具（赤ペン、赤えんぴつも必要）

③気をつけること

- ・ 大事だと思うところはノートに書いてください。
- ・ 「ビデオを止めてください。」と言われたら、ビデオを止めて、先生の指示にしたがってください。



- ・ 必要があるときは、ビデオを止めた
り、もう一度ビデオを見たりしてく
ださい。

- ・ 授業で使っているスライドを、印刷した
い人は、①と同じように **Webページ**

<http://JPNClass.com>

からできます。

先週の宿題

1. 漢字

新しい漢字の練習をしましょう。

2. 音読

「江戸からのメッセージ」を読みましょう。

「読書案内」を読みましょう。

3. 辞典を利用しよう

「辞典を利用しよう」の復習しましょう。言い回し・読み方・意味・部首など、問題に従ってもう一度見直しましょう。

漢字テスト①

漢字の読み方を書きましよう。

- (1) 忙しくて余**裕**がない。
- (2) 容疑に対して**釈**明する。
- (3) 国際**貢**献が必要だ。
- (4) **岬**に灯台がある。
- (5) 老朽化した建物。
- (6) 草刈りの仕事。
- (7) 清浄な水がわいている。
- (8) 無縁のフランス語を習う。
- (9) 哀れな運命。
- (10) 機関銃のように言葉をあびせる。
- (11) **淡**黄色の美しい花。



漢字テスト①

漢字の読み方を書きましよう。

答え合わせをしましよう。

- (1) 忙しくて余裕がない。 よゆう
- (2) 容疑に対して釈明する。 しゃくめい
- (3) 国際貢献が必要だ。 こうけん
- (4) 岬に灯台がある。 みさき
- (5) 老朽化した建物。 ろうきゅうか
- (6) 草刈りの仕事。 かり
- (7) 清浄な水がわいている。 せいじよう
- (8) 無縁のフランス語を習う。 むえん
- (9) 哀れな運命。 あわれ
- (10) 機関銃のように言葉をあびせる。 きかんじゆう
- (11) 淡黄色の美しい花。 たんこうしよく

漢字テスト①

《新音訓の漢字》

漢字の読み方を書きましよう。

面目

有無

申告

迷宮

危ぶまれる

早速

仁王像

夏至

街道

静脈

福音

参宮

京浜

義兄



知己

極上

血眼

氏神様

溪谷

字

河川

学の園

毒舌

蒸す

強引

推す

著す

裁つ

行き交う

割く



漢字テスト①

《新音訓の漢字》

答え合わせをしましょう。

面目

めんぼく

有無

うむ

申告

しんこく

迷宮

めいきゆう

危ぶまれる

あやぶまれる

早速

さつそく

仁王像

におうぞう

夏至

げし

街道

かいどう

静脈

じようみやく

福音

ふくいん

参宮

さんぐう

京浜

けいひん

義兄

ぎけい

知己

ちき

極上

ごくじょう

血眼

ちまなこ

氏神様

うじがみさま

溪谷

けいこく

字

あざ

河川

かせん

学の園

まなびのその

毒舌

どくぜつ

蒸す

むす

強引

ごういん

推す

おす

著す

あらわす

裁つ

たつ

行き交う

いきかう

割く

さく

漢字テスト② 一線の漢字を書きましよう。

- (1) 忙しくてよゆうがない。
- (2) 容疑に対してしやくめいする。
- (3) 国際こうけんが必要だ。
- (4) みさきに灯台がある。
- (5) ろうきゆうかした建物。
- (6) くさかりの仕事。
- (7) せいじょうな水がわいている。
- (8) むえんのフランス語を習う。
- (9) あわれな運命。
- (10) きかんじゅうのように言葉をあびせる。
- (11) たんこうしよくの美しい花。



漢字テスト② 一線の漢字を書きましよう。

答え合わせをしましょう。

- (1) 忙しくてよゆうがない。 余裕
- (2) 容疑に対してしゃくめいする。 釈明
- (3) 国際こうけんが必要だ。 貢献
- (4) みさきに灯台がある。 岬
- (5) ろうきゆうかした建物。 老朽化
- (6) くさかりの仕事。 草刈り
- (7) せいじょうな水がわいている。 清浄
- (8) むえんのフランス語を習う。 無縁
- (9) あわれな運命。 哀れ
- (10) きかんじゆうのように言葉をあびせる。 機関銃
- (11) たんこうしよくの美しい花。 淡黄色

漢字テスト②

《新音訓の漢字》

漢字で書きましよう。

めんぼく

うむ

しんこく

めいきゅう

あやぶまれる

さつそく

におうぞう

げし

かいどう

じょうみやく

ふくいん

さんぐう

けいひん

ぎけい



ちぎ

ごくじよう

ちまなこ

うじがみさま

けいこく

あざ

かせん

まなびのその

どくぜつ

むす

ごういん

おす

あらわす

たつ

いきかう

さく



漢字テスト②

《新音訓の漢字》

漢字で書きましよう。

答え合わせをしましよう。

めんぼく

面目

うむ

有無

しんこく

申告

めいきゅう

迷宮

あやぶまれる

危ぶまれる

さつそく

早速

におうぞう

仁王像

げし

夏至

かいどう

街道

じょうみやく

静脈

ふくいん

福音

さんぐう

参宮

けいひん

京浜

ぎけい

義兄

ちき

知己

ごくじよう

極上

ちまなこ

血眼

うじがみさま

氏神様

けいこく

溪谷

あざ

字

かせん

河川

まなびのその

学の園

どくぜつ

毒舌

むす

蒸す

ごういん

強引

おす

推す

あらわす

著す

たつ

裁つ

いきかう

行き交う

さく

割く

ヘルマン・ヘッセ
 たかはしけんじ
 高橋 健二 訳



客は、夕方の散歩から帰って、わたしの書齋でわたしのそばに腰かけていた。昼間の明るさは消えうせようとしていた。窓の外には、色あせた湖が、丘の多い岸に鋭く縁取られて、遠くかなたまで広がっていた。ちようど、わたしの末の男の子が、おやすみをいったところだったので、わたしたちは、子供や幼い日の思い出について話し合った。

「子供ができてから、自分の幼年時代のいろいろな習慣や楽しみごとが、またよみがえってきたよ。それどころか、一年前から、僕はまた、ちよう集めをやっているよ。お目にかけてよう。」
 と、わたしは言った。

彼が見せてほしいと言ったので、わたしは、収集の入っている軽い厚紙の箱を取りに行った。最初の箱を開けてみて、初めて、もうすっかり暗くなっているのに気づき、わたしは、ランプを取ってマッチをすった。すると、たちまち外の景色はやみに沈んでしまい、窓全体が不透明な青い夜の色に閉ざされてしまった。

わたしのちようは、明るいランプの光を受けて、箱の中から、きらびやかに光り輝いた。わたしたちは、その上に体をかがめて、美しい形や、濃い見事な色を眺め、ちようの名前を言った。

「これは、ワモンキシタバで、ラテン名はフルミネア。ここらではごく珍しいやつだ。」
 と、わたしは言った。

《言葉の意味》

ラテン名

学問上の必要から、動植物にラテン語でつける世界共通の名。学名。

ワモンキシタバ

開帳（左右の前羽の先端までの長さ）、約五十五ミリメートル。前羽は灰色がかった薄茶色、後ろ羽は濃い黄色で黒い帯がある。

《新しい漢字》

書齋 サイ 丘 おか





友人は一つのちようを、ピンの付いたまま箱の中から用心深く取り出し、羽の裏側を見た。

「妙なものだ。ちようを見るくらい、幼年時代の思い出を強くそられるものはない。僕は、小さい少年のころ、情熱的な収集家だったものだ。」と、彼は言った。

そして、ちようをまた元の場所に刺し、箱のふたを閉じて、

「もう結構。」

と言った。その思い出が不愉快でもあるかのように、彼は口早にそう言った。その直後、わたしが箱をしまつて戻つてくると、彼は微笑して、巻きたばこをわたしに求めた。

「悪く思わないでくれたまえ。」と、それから彼は言った。「君の収集をよく見なかったけれど。僕も子供の時、むろん収集していたのだが、残念ながら自分でその思い出をけがしてしまった。実際、話すのも恥ずかしいことだが、ひとつきいてもらおう。

彼は、ランプのほやの上でたばこに火をつけ、緑色の傘をランプに載せた。すると、わたしたちの顔は、快い薄暗がりの中に沈んだ。かれが開いた窓の縁に腰かけると、彼の姿は、外のみからほとんど見分けがつかなかった。わたしは葉巻を吸った。外では、かえるが、遠くから甲高く、やみ一面に鳴いていた。友人は、その間に次のように語った。

《言葉の意味》

ほや

ランプなどの火をおおうガラスの筒。

《新しい漢字》

恥はずかしい

《新出音訓》

微笑ビシヨウ





僕は、八つか九つするとき、ちよう集めを始めた。初めは特別熱心でもなく、ただ、はやりだったのでやっていたままであった。ところが、十歳ぐらいになった二度目の夏には、僕は全くこの遊戯のとりこになり、ひどく心を打ちこんでしまい、そのため、ほかのことはすっかりすっぱかしてしまったので、みんなは何度も、僕にそれをやめさせなければなるまい、と考えたほどだった。ちようをとりに出かけると、学校の時間だろうが、お昼御飯だろうが、もう、塔の時間が鳴るのなんか、耳に入らなかった。休暇になると、パンを一切れ**胴乱**に入れて、朝早くから夜まで、食事になんか帰らないで、**駆け歩く**ことがたびたびあった。

今でも、美しいちようを見るとき、おりおり、あの熱情が身にしみて感じられる。そういう場合、僕はしばしの間、子供だけが感じることできる、あのなんともいえない、むさぼるような、うっとりした感じに襲われる。少年のころ、初めて**キアゲハ**にしのび寄った、あのとき味わった気持ちだ。また、そういう場合、僕は、すぐに幼い日の無数の瞬間を思い浮かべるのだ。強におう、乾いた荒野の、焼けつくような昼下が15り、庭の中の涼しい朝、神秘的な森の外れの夕方、僕はまるで宝を、探す人のように、網を持って待ちぶせていたものだ。そして、美しいちようを見つけると、特別に珍しいのでなくたってかまわない、ひなたの花に止まって、色のついた羽を呼吸とともに上げ下げしているのを見つけると、とらえる喜びに息もつまりそうになり、次第にしのび寄って、輝はんてん20いてる色の斑点の一つ一つ、触角の細いとび色の毛の一つ一つがみえてくると、その緊張と歓喜ときたらなかった。そうした微妙な喜びと、激しい欲望との入り交じった気持ちは、その後、そうたびたび感じたことはなかった。

《言葉の意味》

胴乱 植物採集や昆虫採集に用いる。ブリキまたはトタンで作った容器。肩から提げる。

駆け歩く ここでは、あちらこちらといそがしく動き回ること。

キアゲハ…開帳、七十〜百二十ミリメートル。全体に黄色で、黒色の斑紋がある。

《新しい漢字》

《新出音訓》

遊戯ギ

塔トウ

休暇カ

胴乱ドウラン

緊張キンテン

次第シダイ





僕の両親は、立派な道具なんかくれなかつ

たから、僕は、自分の収集を、古くつぶれ

たボール紙の箱にしまっておかなければなら

なかつた。瓶びんの栓から切り抜いた、丸いコル

クを底にはり付け、ピンをそれに留めた。こ

うした箱のつぶれた縁の間に、僕は、自分の

宝物をしまっていた。初めうち、僕は、自分

の収集を喜んでたびたび仲間に見せたが、ほ

かの者は、ガラスのふたのある木箱や、緑色

のガーゼをはった飼育箱や、そのほかぜいた

くなものをもっていたので、自分の幼稚な設備を自慢することな

かできなかった。それどころか、重大で、評判になるような発見物

や獲物があつても、ないしよにし、自分の妹たちだけに見せる習慣

になつた。あるとき、僕は、僕らのところでは珍しい、青いコムラ

サキをとらえた。それを展翅てんしし、乾いたときに、得意のあまり、せ

めて隣の子供にだけは見せよう、という気になつた。それは、中庭

の向こうに住んでいる先生の息子むすこだつた。この少年は、非の打ちど

ころがないという悪徳をもっていた。それは、子供としては二倍も

気味悪い性質だつた。彼の収集は小さく貧弱だつたが、こぎれいな

のと、手入れの正確な点で、一つの宝石のようなものになつていた。

彼は、そのうえ、傷んだり壊れたりしたちようの羽を、にかわでつ

なぎ合わすという、非常に難しい、珍しい技術を心得ていた。とに

かく、あらゆる点で模範少年だつた。そのため、僕はねたみ、嘆賞

しながら彼をにくんでいた。

《言葉の意味》

展翅… 標本にする昆虫などの羽を広げて、板に留めること。

コムラサキ… 開帳、六十五〜七十ミリメートル。地色はこげ茶色で、柿色の斑紋がある。雄の羽は、外縁部を除いて、光線の反射でむらさき色に光る。



《新しい漢字》

栓セン 幼稚チ

《新出音訓》

自慢マン 獲物エ

貧弱ヒンジャク





この少年に、コムラサキを見せた。かれは、専門家らしくそれを鑑定し、その珍しいことを認め、二十ペニヒぐらいの現金の値打ちはある、と値踏みをした。しかし、それから、彼は難癖をつけ始め、展翅のしかたが悪いとか、右の触角が伸びているとか言い、そのうえ、足が二本欠けているという、もつともな欠陥を発見した。僕は、その欠点をたいしたものは考えなかったが、こっぴどい批評家のため、自分の獲物に対する喜びはかなり傷つけられた。それで、僕は、二度と彼に獲物を見せなかった。

二年たって、僕たちは、もう大きな少年になっていたが、僕の熱情はまだ絶頂にあった。そのころ、あのエーミールがクジヤクヤママユをさなぎからかえしたといううわさが広まった。今、僕の知人の一人が百マルクを受けついだとか、歴史家リビウスのなくなった本が発見されたとかいうことを聞いたとしても、そのときほど、僕は興奮しないただろう。僕たちの仲間でクジヤクヤママユをとらえた者はまだいなかった。僕は、自分のもっていた古いちようの本の挿絵で見たことがあるだけだった。名前を知っていたながら自分の箱にまだないちようの中で、クジヤクヤママユほど僕が熱烈に欲しがっていたものはなかった。幾度となく、僕は、本の中のその挿絵を眺めた。一人の友達は、僕にこう語った。「とび色のこのちようが、木の幹や岩に止まっているところを、鳥やほかの敵が攻撃しようとする、ちようは、たたんでいる黒みがかった前羽を広げ、美しい後ろ羽を見せるだけだったが、その大きな光る斑点は、非常に不思議な思いがけぬ外観を呈するので、鳥は恐れをなして、手出しをやめてしまう。」と。

《言葉の意味》

ペニヒ マルク（マークともいう）とともに、当時のドイツ貨幣の単位。一ペニヒとは一マルクの百分の一。

リビウス…紀元前五九―紀元後一七古代ローマの歴史家。リビウスの書いた「ローマ史」は、百四十二巻の大著であり、ローマ史研究のための貴重な資料とされているが、現存するのは三十五巻だけである。

クジヤクヤママユ…ドイツ語では、「夜のくじゃくの目」とよぶ大形の蛾。

《新しい漢字》

鑑定 カン

難癖 クセ

熱烈 レツ

呈する テイ





エーミールがこの不思議なちようをもっているということを知ると、僕は、すっかり興奮してしまつて、それが見られるときの来るのが待ちきれなくなつた。食後、外出ができるようになる、すぐ僕は、中庭を超えて、隣の家の四階へ上つていった。そこに、例の先生の息子は、小さいながら自分だけの部屋をもつていた。それが、僕にはそのくらしいらやましかつたかわからない。途中で、僕は、だれにも会わなかつた。上にたどり着いて、部屋の戸をノックしたが、返事がなかつた。エーミールはいなかつたのだ。ドアのハンドルを回してみると、入り口は開いていることがわかつた。

せめて例のちようを見たいと、僕は中に入った。そしてすぐに、エーミールが収集をしまつて二つの大きな箱を手に取つた。どちらの箱にも見つからなかつたが、やがて、そのちようはまだ展翅板に載っているかもしれないと思いついた。はたしてそこにあつた。とび色のビロードの羽を細長い紙きれではり伸ばされて、クジャクヤママユは**展翅板**に留められていた。僕は、その上にかがんで、毛の生えた15赤茶色の触角や、優雅で、果てしなく微妙な色をした羽の縁や、下羽の内側の縁にある細い羊毛のような毛などを、残らず間近から眺めた。あいにく、あの有名な斑点だけは見られなかつた。細長い紙きれの下になつていたので。

胸をどきどきさせながら、僕は紙きれを取りのけたいという誘惑に20負けて、留め針を抜いた。すると、四つの大きな不思議な斑点が、挿絵のよりはずっと美しく、ずっとすばらしく、僕を見つめた。それを見ると、この宝を手に入れたという、逆らいがたい欲望を感じて、僕は、生まれて初めて盗みを犯した。僕は、ピンをそつと引っぱつた。ちようは、もう乾いていたので、かたちは崩れなかつた。僕は、それを25をてのひらに載せて、エーミールの部屋から持ち出した。そのとき、さしずめ僕は、大きな満足感のほか何も感じていなかつた。

《言葉の意味》

展翅板… 標本にする昆虫などを展翅するための板。

《新しい漢字》

《新出音訓》

優雅ガ

犯すおか



ちようを右手に隠して、僕は階段を下りた。そのときだ。下の方からだれか僕の方へ上がってくるのが聞こえた。その瞬間に、僕の良心は目覚めた。僕は突然、自分は盗みをした、下劣やつだということを知った。同時に、見つけられはしないか、という恐ろしい不安に襲われて、僕は、本能的に獲物を隠していた手を上着のポケットにつっこんだ。ゆっくりと僕は歩き続けたが、大それた恥ずべきことをしたという、冷たい気持ちに震えていた。上がってきた女中と、びくびくしながらすれ違ってから、僕は胸をどきどきさせ、額に汗をかき、落ち着きを失い、自分自身におびえながら、家の入り口に立ち止まった。

すぐに僕は、このちようをもっていることはできない、もっているにはならない、元に返して、できるなら、何事もなかったようにしておかなければならない、と悟った。そこで、人に出くわして見つけられはしないかということに極度に恐れながらも、急いで引き返し、階段を駆け上がり、一分の後には、またエミールの部屋の中に立っていた。僕はポケットから手を出し、ちようを机の上に置いた。それをよく見ないうちに、僕はもう、どんな不幸が起こったかということを知った。そして、泣かんばかりだった。クジヤクヤママユはつぶれてしまったのだ。前羽が一つと触角が一本、なくなっていた。ちぎれた羽を用心深くポケットから引き出そうとすると、羽がばらばらになっていて、繕うことなんかもう思いもよらなかった。

盗みをしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちようを見ているほうが、僕の心を苦しめた。微妙なとび色があった羽の粉が、自分の指にくっついていてのを見た。また、ばらばらになった羽がそこに転がっているのを見た。それですっかり元どおりにすることができたら、僕は、どんな持ち物でも楽しみでも、喜んで投げ出していただろう。

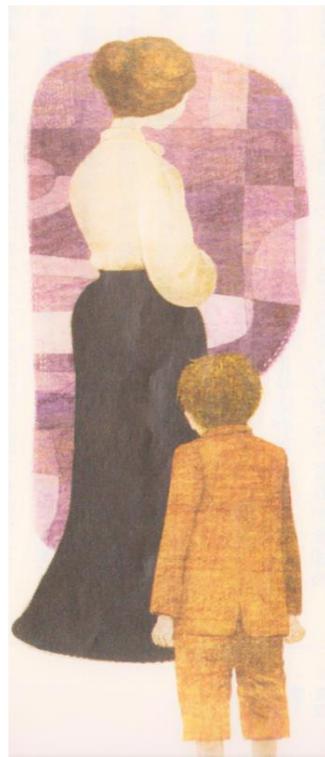
《新しい漢字》

悟るさと



悲しい気持ちで、僕は家に帰り、夕方まで、うちの小さい庭の中で腰かけていたが、ついに、一切を母に打ち明ける勇気を起こした。母は驚き悲しんだが、すでに、この告白が、どんな罰をしのぶことより、僕にとつてつらいことだったということを感じたらしかなかった。

「おまえは、エーミールのところへ行かなければなりません。」と、母はきつぱりと言った。「そして、自分でそう言わなくてはなりません。それよりほかに、どうしようもありません。おまえのもっているものうちから、どれかを埋め合わせにより抜いてもらうように、申し出るのです。そして、許してもらえるように頼まなければなりません。」



あの模範少年ではなくて、ほかの友達だったら、すぐにそうする気になれただろう。彼が、僕の言うことをわかってくれないし、おそらく全然信じようともしないだろうということ、僕は前もってはつきり感じていた。そのうちに夜になってしまったが、僕は出かける気になれなかった。母は、僕が中庭にいるのを見つけて、

「今日のうちでなければなりません。さあ、行きなさい。」と、小声で言った。それで、僕は出かけていき、

「エーミールは？」

と尋ねた。彼は出てきて、すぐに、だれかがクジヤクヤママユをだいなしにしてしまった、悪いやつがやったのか、あるいは猫がやったのかわからない、と語った。僕はそのちようを見せてくれ、と頼んだ。二人は上に上がっていった。彼はろうそくをつけた。僕は、だいなしになったちようが展翅板の上に載っているのを見た。エーミールがそれを繕うために努力した跡が認められた。壊れた羽は丹念に広げられぬれた吸い取り紙の上に置かれてあった。しかし、それは直すよしもなかった。触角もやはりなくなっていた。そこで、それは僕がやったのだ、と言い、くわしく話し、説明しようと試みた。

すると、エーミールは、激したり、僕をどなりつけたりなどはないで、低く「ちえつ。」と舌を鳴らし、しばらくじっと僕を見つめていたが、それから、

「そうか、そうか、つまり君はそんなやつなんだな。」と言った。

僕は、彼に、僕のおもちやをみんなやる、と言った。それでも、彼は冷淡に構え、依然僕をただ軽蔑的けいべつに見つめていたので、僕は、自分のちよりの収集を全部やる、と言った。しかし、彼は、

「結構だよ。僕は、君の集めたやつはもう知ってる。そのうえ、今日また、君がちよをどんなに取りあつかっているか、ということを見るのができたさ。」と言った。

その瞬間、僕は、すんでのところであいつのどぶえに飛びかかるところだった。もうどうにもしようがなかった。僕は悪漢だということに決まってしまった。エーミールは、まるで世界のおきてを代表でもするかのよう、冷然と、正義を盾に、あなどるように僕の前に立っていた。彼はののしりさえしなかった。ただ僕を眺めて、軽蔑していた。

そのとき、初めて僕は、一度起きたことは、もう償いのできないものだということを悟った。僕は立ち去った。母が根掘り葉掘りきこうとしないので、僕にキスだけして、かまわずにおいてくれたことをうれしく思った。僕は、「床にお入り。」と言われた。僕にとってはもうおそい時刻だった。だが、その前に、僕は、そっと食堂に行つて、大きなとび色の厚紙の箱を取つてき、それを寝台の上に載せ、やみの中で開いた。

そして、ちよを一つ一つ取り出し、指で粉々に押しつぶしてしまった。

25



9

《新しい漢字》
つぐな
償い



20

15

10

5

場面ごと、あらすじをまとめてみましょう。

1. 現在

① 何ページ何行目〜何ページ何行目

最初〜2ページ目最後

② へあらすじを書いてみよう。〜

幼い日の思い出を客と話し合っていて、「わたし」は、またちやうを収集していることを話し、それを見せた。客は、ちやうの収集家だった少年時代の苦い思い出を語り始めた。

2. 回想

(1) 「僕」が十歳のころ

① 何ページ何行目〜何ページ何行目

3ページ目最初〜5ページ目8行目

② へあらすじを書いてみよう。〜

少年時代の「僕」は、ちやう集めに夢中だった。珍しいコムラサキをとらえたとき、得意のあまり、隣の子供に見せたが、こつぴどく批評されて「僕」の喜びは傷つけられた。

(2) 「僕」が十二歳のころ

① 何ページ何行目〜何ページ何行目

5ページ目9行目〜最後

② へあらすじを書いてみよう。〜

隣のエーミールがクジャクヤママユをもっていると聞いて、誘惑に負けた「僕」はそれを盗んでしまう。ちやうを壊してしまつた「僕」はエーミールに謝るが、彼はただ軽蔑的に見つめるだけだった。「僕」は、じぶんのちやうをすべて押しつぶした。

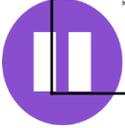


ちやうを盗んでしまった「僕」の行動と心情

「僕」の行動	「僕」の心情を表す表現
<p>斑点<small>はんでん</small>を見た。 (6ページ)</p> <p>ちやうを盗んだ (6ページ)</p> <p>だれかが上つてくるのが聞こえた。 (7ページ)</p> <p>家の入り口に立ち止まった。 (7ページ)</p> <p>ちやうがつぶれたことを知った。 (7ページ)</p>	<p>「この宝を手に入れたいという、逆らいがたい(欲望)を感じて」</p> <p>「(大きな満足感)のほか何も感じていなかった」</p> <p>「自分は盗みをした、(下劣)なやつだということを悟った。」</p> <p>「見つかりはしないかと、という恐ろしい(不安)に襲われた」</p> <p>「このちやうをもっていることは(できない)、もっているは(ならない)」</p> <p>「(泣かん)ばかりだった。」</p> <p>「(盗み)をしたという気持ちより、自分がつぶしてしまった、美しい、珍しいちやうを見ているほうが、僕の心を(苦しめた)。」</p>

謝る「僕」の言葉とエーミールの態度をまとめましょう。

「僕」の言葉	エーミールの態度
<p>「僕がやったのだ」</p> <p>「僕のおもちゃをみんなやる」</p> <p>「ちやうの収集を全部やる」</p>	<p>激したり、僕を(どなりつけ)たりしないで、じっと見つめていた。</p> <p>(冷淡)に構え、ただ(軽蔑的)に見つめていた。</p> <p>冷然と、正義を盾に(あなどる)ように立っていた。</p>



- ① 書齋で手紙を書く。
- ② この辺は丘が多い。
- ③ ちようを元の場所に刺す。
- ④ 話すのも恥ずかしい。
- ⑤ この遊戯のとりこになった。
- ⑥ 塔の時計が鳴った。
- ⑦ 来週は休暇を取る。
- ⑧ パンを朧乱に入れた。
- ⑨ 試験の間は緊張をした。
- ⑩ 栓からコルクを抜く。
- ⑪ 設備は幼稚だった。
- ⑫ 自分の収集を自慢する。



漢字の学習

読み方を書きましよう。

答え合わせをしましよう。

- ① 書齋で手紙を書く。
しよさい
- ② この辺は丘が多い。
おか
- ③ ちようを元の場所に刺す。
さす
- ④ 話すのも恥ずかしい。
はずかしい
- ⑤ この遊戯のとりこになった。ゆうぎ
- ⑥ 塔の時計が鳴った。
とう
- ⑦ 来週は休暇を取る。
きゆうか
- ⑧ パンを朧乱に入れた。
どうらん
- ⑨ 試験の間は緊張をした。
きんちよう
- ⑩ 栓からコルクを抜く。
せん
- ⑪ 設備は幼稚だった。
ようち
- ⑫ 自分の収集を自慢する。
じまん

⑬ 獲物を見つける。

⑭ 専門家に鑑定を頼む。

⑮ 難癖をつける。

⑯ 熱烈に欲しかった。

⑰ 思いがけぬ外観を呈する。

⑱ 優雅な色をした羽。

⑲ 自分がしたことを悟った。

⑳ 羽を丹念に広げた。

㉑ もう償いはできない。



⑬ 獲物を見つける。 えもの

⑭ 専門家に鑑定を頼む。 かんてい

⑮ 難癖をつける。 なんくせ

⑯ 熱烈に欲しかった。 ねつれつ

⑰ 思いがけぬ外観を呈する。 ていする

⑱ 優雅な色をした羽。 ゆうが

⑲ 自分がしたことを悟った。 さとつた

⑳ 羽を丹念に広げた。 たんねん

㉑ もう償いはできない。 つぐない

漢字の学習

《新音訓の漢字》
読み方を書きましよう。

閉ざす

微笑

次第

貧弱

犯す

一切



漢字の学習

《新音訓の漢字》

読み方を書きましよう。

答え合わせをしましよう。

閉ざす

とざす

微笑

びしょう

次第

しだい

貧弱

ひんじやく

犯す

おかす

一切

いさい

宿題

次回の授業までにやる勉強です。

1. 漢字

新しい漢字の練習をしましょう。

2. 音読

「少年の日の思い出」を読みましょう。

3. 「少年の日の思い出」の3つの場面のあらすじを、 もう一度まとめましょう。



お知らせ

1. 質問があったら、メールをください。すぐお返事します。
 2. 自分が書いた文章を見てもらいたいときはメールで送って
くれば、直して送り返します。
- ❖ メールアドレスは、 Akiko@JPNCClass.com です。
 - ❖ このビデオのスライドはWebページ <http://JPNCClass.com> から
ダウンロードや印刷ができます。



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語 一年

年間学習表



身につけたい力

7月	6月	5月	4月		
		<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、メモをもとにスピーチをしよう。</p>	<p>野原はうたう 好きな詩を、登場する生き物の気持ちになつて朗読しよう。</p>	<p>話す／聞く 一年間の学習を通して 先生の話を聞き、学習を進めよう。</p>	
<p>文章の推敲と原稿用紙の使い方 推敲のポイントと原稿用紙のうえでの推敲の仕方を知らう。原稿用紙の決まりを確かめよう。</p>	<p>情報を文章にまとめよう 自分の身の回りのことについて、情報を集め、文章にまとめよう。</p>	<p>発見したことを伝えよう スピーチの構成を考え、スピーチメモを書こう。</p>	<p>野原はうたう 自分の好きな生き物を選んで、詩を作ろう。</p>	<p>書く 新聞記事 記事の要約をし、記事に対する自分の意見や感想を書こう。</p>	
<p>光と風からもらった贈り物 筆者が「高原」のどんなところに、言葉の豊かさを感じているかをとらえよう。</p>	<p>クジラたちの声 クジラの情報伝達に関する二つの問いをおさえ、音の役割、海中での情報伝達に音が最適である理由をつかもう。</p>	<p>ちよつと立ち止まつて 各図の説明を通して、ものの見方について、筆者が述べていることをとらえよう。</p>	<p>野原はうたう 作者が生き物の姿にどんな思いを感じているかを、読み取るう。 にじの見える橋 少年の行動や心情に着目し、にじを見る前とあとの気持ちの変化をとらえよう。</p>	<p>読む 新聞記事 新聞記事を読もう。</p>	
<p>混同しやすい漢字 形が似ていたり音が同じであったりする漢字を知り、間違えて使わないように気をつけよう。</p>	<p>言葉の単位 文節や単語に区切る方法を知ろう。</p>	<p>漢字の組み立てと部首 漢字の部分のよび名と表すものを覚えよう。</p>	<p>話し言葉と書き言葉 話し言葉と書き言葉の違いをおさえよう。</p>	<p>言葉</p>	

1 2月 (冬休み=授業は3回)	1 1月	1 0月	9月	8月	
	<p>いろは歌 仮名のみの原文を、 古文の調子にのって 読み、聞いてもらおう。</p>				話す／聞く
<p>未来をひらく微生物 環境問題について課 題を見つけ、レポー トにまとめよう。</p>		<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 心に残ったこと、自 分の生活と比べてど んなことを考えたの か、感想文を書こう。</p>	<p>手紙を書こう 手紙の形式を知り、 目的や相手を考え、 手紙が書けるようにな ろう。</p>	<p>さつき 読み取った内容を、 自分自身の体験と重 ねて感想を書こう。 読書記録 読んだ本の読書記録 を書いて残そう。</p>	書く
<p>未来をひらく微生物 自然の仕組みの中で、 微生物の働きが、環 境問題の解決どのよ うに利用されている のか読み取ろう。</p>	<p>いろは歌 古文の言葉の響きや 調子に読み慣れよう。 蓬萊の玉の枝 ほらいらい 古典に対する興味や 関心をもって読もう。 今に生きる言葉 漢文独特の言い回し に慣れよう。「矛盾」 がどんなエピソード からどんな意味に使わ れるようになったのか 確かめよう。</p>	<p>大人になれなかった 弟たちに・・・ 表現に着目し、登場 人物の心情や作者の 思いを読み取ろう。</p>	<p>麦わら帽子 麦わら帽子やカモメ に対するマキの気持 ちと、その移り変わ りを読み取ろう。</p>	<p>さつき 助けを呼びに走る場 面や、助かった正作 を見上げる場面の、 惇の胸中を表す言葉 に注目して読もう。</p>	読む
<p>文の組み立て 文の成分のそれぞれ の働きや、文節どう しの関係を理解しよ う。</p>	<p>古典の言葉 文語と口語の違いを 考えよう。 漢字の音訓 音と訓それぞれの読 み方と、意味を考え よう。</p>	<p>漢字四字の熟語 漢字四字の意味をお さえよう。</p>	<p>漢語・和語・外来語 漢語・和語・外来語 の分類ができるよう になろう。</p>		言葉

	3月	2月	1月 (冬休み=授業は3回)	
		心に残る思いで読み手の興味を引くように、発表しよう。		話す／聞く
	言葉について、課題を調べ、資料にまとめる。	心に残る思いで、今までの経験で、自分が成長したと思えることや、変わったと思うことを思い出して、文章にまとめよう。	江戸からのメッセージ 江戸の知恵を今の時代に生かせることは何か考え、それをまとめよう。	書く
	大仏様は「にっこり」しています 外国研究者との会話を通して、説明されている日本語の特色を読み取る。 胸の底の人と言葉たち 人や言葉との出会いを読み取り、筆者がわたしたちに願うことは何かを考えよう。	少年の日の思い出 登場人物の心情の移り変わりをとらえ、生き方を考えよう。	江戸からのメッセージ リサイクルを徹底した江戸っ子の生活と、そこから導かれた筆者の主張をつかもう。	読む
〈一年生の漢字〉 一年生で習った漢字の復習をしよう。	漢字の成り立ち 漢字の成り立ちをおさえ、成り立ちで意味や読みを類推できることを知ろう。	指示する語句と接続する語句 指示する語句と接続する語句の種類や用法を理解しよう。	辞典を活用しよう 国語辞典、漢和辞典の使い方を知り、実際に様々な言葉を調べよう。	言葉



JPN Class

Online school - 日本語で学ぼう

中学

国語一年

二月 第1週

「いいね」

「チャンネル登録」

よろしくね！

また来週。

